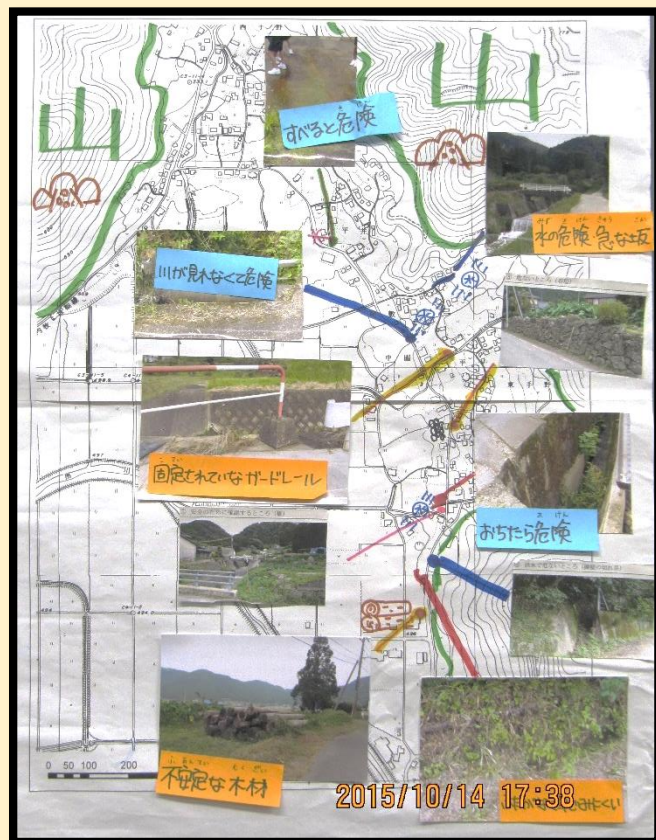


⑥地域のことをよく知ることが大切。

阿蘇山は、大雨が降った時には、普段と全く違う姿を見せるそうです。阿蘇山周辺に暮らす住民のみなさんからは、平成24年の土砂災害の経験などから、噴火や土砂災害から身を守るためには『地域の環境、危険な場所など、地域のことをよく知ることが大切』とおはなしがあり、阿蘇市などで進める「阿蘇グローバルジオパーク」の活動を『阿蘇(地域)を知る良い機会』と評価しました。

また、パネルディスカッションに先立って行われた研究発表では、阿蘇市立一の宮中学校2年生が校区を実際に歩き、自然災害が起きた場合、危険になる場所などを自分たちの目線でピックアップし、大きな地図に取りまとめ、気づいた点などを発表しました。

ふたのない側溝は、大雨が降る中で避難をする場合、はまり込んでしまう可能性があるなどたくさんの気づきがあったようです。

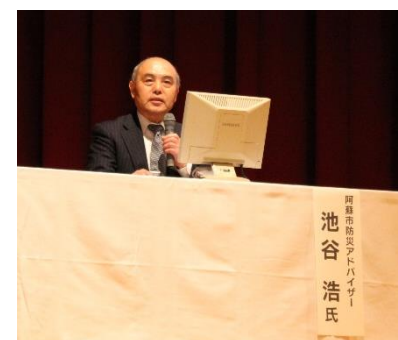


考えておこう！火山噴火への備え

2015火山砂防フォーラム（熊本県阿蘇市）の意見交換から



平成27年9月14日噴火後の阿蘇山の状況
撮影：九州地方整備局



コーディネーター
池谷 浩
(内閣府 火山防災エキスパート)



パネリスト (左より 敬称略)
石原 和弘 (火山噴火予知連 副会長、火山活動評価検討会 座長)
木部 直美 ((公財)阿蘇グリーンストック)
河野 まゆ子 (JTB総合研究所観光危機管理研究室 主任研究員)
佐藤 義興 (阿蘇市長)
西山 幸治 (国土交通省砂防部長)
沼川 敦彦 (熊本県危機管理防災課長)

火山噴火に備えましょう！（まとめ）

活火山の周辺に暮らすみなさんは・・・

- いつかは噴火をするから「活火山」という認識をもちましょう。
活発化しても慌てず、その火山の特徴をよく知って、落ち着いて行動しましょう。
- 「噴火警戒レベル」など、火山情報の意味について、よく理解しておきましょう。
- 噴火中や噴火後は、噴火そのものはもちろん、少量の降雨で土砂災害が起きる可能性が高くなることを認識しておきましょう。
また、活火山周辺地域では、噴火していない時でも、土砂災害が起きやすいことも認識しておきましょう。
- 住まいの周辺の自然環境や危険箇所について、普段から意識し、認識しておきましょう。

活火山の周辺で観光業にかかわるみなさんは・・・

- 火山噴火が起きた場合、問合せに対するみなさんの対応が、観光客の方々のその後の行動を大きく左右することを認識しておきましょう。行政などで組織する火山防災協議会などと普段から情報交換を行うなど、「顔の見える関係」を築いておき、いざというときに、正確な情報を素早く入手できる体制づくりに努めてください。

いま、「日本で火山が活発化しているのでは？」という声があります。
日本はせまい国土に世界の火山のおよそ8%が集中する世界有数の火山国です。
私たちは、火山噴火のリスクとどう向き合っていくべきなのか？

平成26年より、活発な噴火活動を繰り返している阿蘇山の山麓で、平成27年10月29日「2015火山砂防フォーラム」が開催され、火山学者、火山防災に関わる行政機関、観光地の防災を考える専門家、地域に暮らす住民などが集まり、これからの火山防災に関する意見交換(パネルディスカッション)を行いました。

この資料は、その意見交換の中でも、住民のみなさんにも知っておいていただきたいことを取りまとめたものです。

①日本の活火山の現状は、決して異常ではない。



現在、活発化が指摘されている日本の活火山の状況について、有識者は
 ・火山活動を評価するためには、少なくとも半世紀ぐらいの幅で考える必要がある。
 ・東日本大震災後、多くの火山で地震活動が活発化したが、大震災前後で噴火件数には差がない。
 ・昨年来活発化した阿蘇山は、20年前まではしばしば噴火していたが、この20年静かだった。
 ・最近100年間は、桜島の大正噴火、北海道駒ケ岳以外に大規模な噴火が起きていないが、400年間でみると、かなりの大規模噴火があった。
 ことなどを指摘。『10～15年くらいの幅で見ると、国内で15～20くらいの火山が噴火する』『多くの人にとって火山噴火は人生に1度あるか、ないかのこと。噴火するわけがないと決めつけず、火山の特性をよく知って、対応をする必要がある』と結ばれました。



最近400年の大規模噴火（噴出物・崩壊土砂：1億m ³ 以上）			
	① 10億m ³ 以上	② 3億～10億m ³	③ 1億～3億m ³
17世紀	1640年北海道駒ヶ岳 1663年有珠山 1667年樽前山	1667年北海道駒ヶ岳	1684年伊豆大島
18世紀	1707年富士山 1739年樽前山 1741年濃島大島 1779年桜島	1777年伊豆大島 1783年浅間山 1792年雲仙岳・眉山 1822年有珠山 1853年有珠山 1856年北海道駒ヶ岳	1769年有珠山 1813年諏訪之瀬島
19世紀	1888年新燃山	1822年有珠山 1853年有珠山 1856年北海道駒ヶ岳	1813年諏訪之瀬島
20世紀	1914年桜島	1929年北海道駒ヶ岳	1934年薩摩硫黄島 1939年伊豆大島 1946年桜島 1991年雲仙岳 2013年～西之島？
?	?	?	2013年～西之島？

私たちが経験した噴火は小粒！大噴火はこれから起きる
 深刻な影響範囲の目安: ①100～数100km、②数10～100km程度③10数km以内

②火山噴火に関する情報をよく知る。

平成26年以降の阿蘇山噴火で、周辺地域は宿泊客大量キャンセルという大きな打撃を受けました。TV・新聞などで噴火の際の映像・画像が繰り返し放送され、『噴火警戒レベル』が「3」に引き上げられたことを受けての判断と想定されます。

この『噴火警戒レベル』は、火山活動の目安となることは確かなのですが、本来の役割は『噴火にともなって、立ち入ることのできない範囲と地域住民の取るべき行動』を示す指標です。レベルが上がるにつれて、規制される範囲が広がりますが、地域住民の避難が必要とされるレベルは、「4」以上となっています。

右下の地図中にある赤い丸印は、平成27年9月14日に阿蘇山が噴火し、噴火警戒レベルが「3」に引き上げられたときの、立ち入ることができない範囲を示し、青い丸印は、阿蘇市の主な観光スポットを示しています。

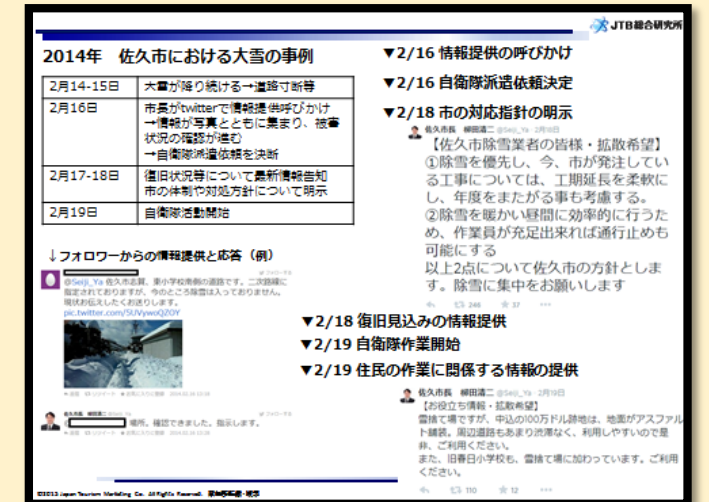
赤い丸で示した『立ち入れない範囲』に近い観光スポットもありますが、大半の観光スポットは、『立ち入れない範囲』から距離があることがわかります。火山地域周辺は、観光地であることが多く、多くの人が観光を生活の支えとしています。私たち一人一人が冷静に行動することは、火山地域が必要以上に経済的な打撃を受けることを防ぐことにも繋がります。



③観光業のみなさんの頑張りで風評被害は減らすことができる。

自然災害などが起きた場合の観光客の行動として、『予約客の大半は、（役場などではなく）直接宿泊施設に状況を確認する』という特性があることが紹介されました。さらに、『その際の電話対応やホームページなどにおける情報提供の内容がキャンセルか否かを分ける』『観光業に携わるみなさんも、行政機関や学識者が構成員となり、火山防災対策を考えている火山防災協議会との関係を深め、常日頃から火山や火山災害に関して、情報を収集し、理解を深めることがとても大切である』という意見もありました。

また、『そのような観光客に対する的確な情報提供のためには、行政機関が、噴火状況・被害などについて、素早く情報収集をおこなうことも必要』として、平成26年 大雪の被害状況を市長自らがツイッターを使って、地域の情報を収集し、それをもとに関係機関に適切な支援要請を行った事例が紹介されました。



④噴火時、そして噴火後も、土砂災害には十分な警戒が必要。

このところ頻繁に発生する局地的な豪雨によって、全国の火山周辺地域で大規模な土砂災害が多数発生しています。

阿蘇山周辺も例外ではなく、最近では平成2年、平成24年に多数の死者を出す土砂災害が発生しています。

記憶に新しい平成26年9月の御嶽山噴火の際にも、降りつもった火山灰がその後の雨などで土石流となって流れ出すことが心配されたため、国土交通省による緊急の現地調査、調査結果を踏まえた土石流のシミュレーションや緊急の対策工事が行われたこと、などが紹介されました。

火山がふき出した火山灰などが厚く堆積している活火山周辺地域では、噴火活動が収まった後も、ごく少量の雨で土砂災害が発生する可能性があり、雨の状況に十分な警戒が必要です。

